

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略 実施計画	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度													実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
(1)社会環境変化に応じた教育研究組織の整備																				
1. 変化対応力のある人材の育成	大学	①適切な教育研究組織の整備	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	令和8年度からの収容定員920名への変更届出受理を踏まえ、中長期的な観点で教職員数の基本的な考え方を整理した上で、教員新規採用等を進めた。	100	引き続き中長期的な観点で教育研究組織の整備について検討する。
	大学	②学生の主体的な活動を支える施設等の整備	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	「建設事業委員会大学部会」を4月、8月に続き10月に開催し、今後の授業展開等を想定した具体の教室改修等の計画を部会として大枠で決定した。また、1-304教室については9月末に改修工事が完了した。さらに、令和8年度からの使用を念頭に、一部教室について、改修工事を実施した。今後の授業展開（通信設備を活用した配信等の授業展開等）を進めるにあたり、ワーキンググループを設置し検討を開始した。	100	10月の「建設事業委員会大学部会」により策定した教室改修等計画に従い工事を進捗している。また通信設備を活用した配信等の授業展開等を進めるにあたり、ワーキンググループを設置し検討を開始したが、今後は、ワーキンググループの意見を反映したWi-Fi環境や機器等の整備を担当者等を交え進めていく。	
	大学	③脱炭素型施設設備の整備の促進	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	PPAモデルによる太陽光発電設備を4月に整備し、5月から正式運用を開始した。また、空調設備についてもGHP中心からEHP中心への転換を図る更新計画の策定・実行を順次進めている。	100	老朽化による空調設備の不具合が頻発しており、当初の整備計画と異なる対応が求められている。関係部署と調整し、弾力的な対応を行う。その他LEDの整備も検討する。	
	中高	①高校と六年制それぞれに設置している「教育運営推進室」の一本化	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	一本化した教育運営推進室が既に本格的に稼働している。	100	-	
	中高	②新「教育運営推進室」を起点とし、学校の歴史や伝統、社会情勢や地域の実情を踏まえた学校教育の在り方の検討	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	検討の起点として、3年制、6年制の目指すべき教育プログラム（人柄を育てる。感性を育む。国語教育を第一と考える。）をスタートさせ、ブラッシュアップしながら進めている。	75	令和8年度も動向を注視しながら進める。	
	(2)多様な学生・生徒等入学者の受入れ																			
	大学	①アドミッションポリシーに即した学生確保	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	特別選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜で実施する面接試験で使用する面接シートを全面的に見直し、アドミッションポリシーとの関係がより明確になるようにした。令和9年度入試から、実効性を高めるために、特別選抜、総合型選抜の実施方法を変更することを、組織決定した。また、普通科高校からの受験生を増やすために、特別選抜、日駒選抜に新しい入試区分を設置した。	100	受験生に対し、各入試種別とアドミッションポリシーの関係をより明確に示すために、入試要領の内容を見直す必要がある。
	大学	②留学生及び女子学生への取り組み	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	留学生については、引き続き日本語学校への訪問、説明会等へ積極参加した。女子学生の確保に関しては、当面は普通科高校の文系の生徒をターゲットとすることに重点を置くことや、女子学生支援の状況をHP等でPRすることで対応した。女子枠の設置に関しては、引き続き検討する。	100	外国人留学生入試に関しては、指定校制度と奨学金を新たに創設し、日本語学校や説明会において説明している。今後は非漢字圏出身の留学生に対し、より本学を認知させる手法などを検討したい。また入学後の支援についても体制整備を含めより充実させる。入試における女子枠に関しては、メリットとデメリットを調査し、導入するかどうかの検討を進めている。
	中高	①授業の創意工夫や、生徒一人ひとりへの熱意ある指導への継続的な取り組み推進	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	各教科とも、定期的に教員ミーティングを重ね情報を共有し、適宜、運営委員に報告している。	75	来年度も熱意ある指導の継続を行う。
	中高	②生徒の多様な進路目標実現に向けた、入学後の早い時期にコース選択のためのガイダンスの実施	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	早い時期からコース選択の指導により、大学進学の結果は、国公立12名、早慶14名、上智3名、東京理科（一部）15名、MARCH112名、学習院7名、関関同立2名、成成明國33名、日東駒専162名等の合格実績（現役生）となった。	100	-
中高	③学校案内やパンフレットのコースの説明を見直し、新たなリーフレットの作成に着手	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	令和9年度募集の学校案内、パンフレット等作成に向け準備を進めている。	100	-	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
 ※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略 実施計画	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度												実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)		
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
(3)教育プログラム、学修サポートの充実・向上																					
1. 変化対応力のある人材の育成	大学	①DX時代に対応する人材の育成	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	令和8年度からの教育課程変更案について、共通教育学群及び各学科間の調整・取り纏めを行い、12月教授会にて審議・決定した。データサイエンスプログラムについては、文部科学省認定プログラム「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」の認定を踏まえ、令和8年度入学生からは本学独自のプログラムの廃止を決定した。	100	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」については、履修者の単位取得状況等を確認、検証していく。カリキュラム変更に伴い、変更届の提出準備を進める。	
	大学	②新たな自発的主体的な学びの支援	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	資格を取得した学生によるピアサポートを支援する体制については、取得ニーズが高いと想定される資格の抽出は終了。令和8年度からの実施に向けた体制整備を図る。	75	有資格者の中から人選し、ピアサポート体制と運営方法についての検討を進める。	
	大学	③教学マネジメントの一層の充実	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	文部科学省の「学生調査」及び大学独自の「大学での学びに関する学生調査」を実施し、集計結果を教授会で報告。学生へのフィードバックの作成を依頼している。	75	次年度の調査については、課題の抽出のみならず、大学教育の強み等を把握する設問の設計を検討する。	
	中高	①6つの柱「国語教育」「ものづくり教育」「グローバル教育」「キャリア教育・進路教育」「理数教育」を「日駒新教育 八ニカム構想」と位置づけ、これを体系的に具現化する取組みを推進	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	内容を刷新したリニューアル版のリーフレット「2025日駒新教育八ニカム構想」を作成し、6つの教育の柱をアピールした。	100	-	
	(4)学生生徒のキャリア形成支援に向けたプログラムの充実																				
	大学	①キャリア教育と就職ガイダンスの融合による進路・就職支援	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	就職支援ガイダンス内の7講座をインターンシップキャリア工房に取り入れた。業界別講座や、卒業生座談会を展開し、学生の細かいニーズに応え、職業観の醸成を図った。10月以降の企業研究会は、業界毎に日付を分けて開催し、学生が業界全体や仕事の繋がりを意識できるよう工夫した。また、卒業生の帯同を依頼し、実際に働くリアルをイメージしてもらえよう意識した。	100	-
	大学	②外部試験の活用による学生の学ぶ意識を向上させる仕組みの構築	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	外部試験に基づいた学生の非認知スキルの向上や学修ポートフォリオを意識した「成長支援ハンドブック」を浸透させるべく、FD活動を推進。3月にシンポジウムをした。	100	次年度も教育の質保証活動を推進すべく、計画的なFD活動を推進する。
	中高	①生徒の発達段階に応じた適切なキャリア教育を行い「生きる力を育む総合探究」「TGG体験」「日工大見学会・研究室インターンシップ」「進路探求発表会」等の充実への取組みを推進	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	情操教育として中学校は、1月に「百人一首」大会、高校1年生、高校2年生は、3月に「自転車講習会」を行った。	100	-
	(5)学生生徒主体のキャンパスライフ環境の整備・充実																				
	大学	①学生自治会への加入促進・支援	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	学生自治会への加入率は、クラブwebサイトの充実やSNSの有効活用、新入生歓迎クラブ体験イベント「春祭り」の開催等を通じて参加促進を図ったことにより、過去最高水準まで達した。課外活動が健全で有意義なものとなるよう、学生支援課では「課外活動ハンドブック」「会計の手引き」「安全対策マニュアル」を作成。また、各団体のリーダーを対象に「チームビルディング研修」を実施し、クラブ内メンバー同士の信頼関係を築き、意見交換や協力が円滑に行われるよう支援していく。	100	次年度も、「春祭り」の開催等を通じ、高水準まで達している学生自治会への加入率を維持したい。一方で、部室が不足している状況になっており、学内の空き居室を間借りできないか検討していく。また、学生自治会の各団体が、自分たちの活動資金を集めるためにクラウドファンディングに参画し、さらに先輩と後輩の絆を深め、かつ大学内での寄付文化を醸成していく。

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略 実施計画	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度													実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1. 変化対応力のある人材の 育成	大学	②学生生活を充実させるための支援・取り組みの展開	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	<p>新入生を対象とした入学前アンケートを実施し、関係部署に情報共有した。</p> <p>日本学生支援機構奨学金業務において、4月より業務委託を開始し、多子世帯への支援拡充など柔軟に対応した。</p> <p>「brilliant student賞」授賞式を12月までに2回開催した。受賞学生の自信と意欲を創出し、表彰式を観覧した学生の主体的・積極的行動を喚起させたい。</p> <p>女子学生（主に新入生）が抱える学修面や生活面の不安を取り除くため、教職員で構成される「女子学生応援プロジェクトチーム」を立ち上げている。上級学年の女子学生も参加し、ランチ会や防犯セミナーなどで交流を図り、安心して学生生活を送れるよう支援していく。</p> <p>新たに留学生スカラシップ制度を制定した。</p>	100	経済的困難な学生に対する新たな給付型奨学金制度の制定を検討する。育英事業では学費を「貸与」として貸付（育英貸付金）しているが、今後は「給付」型奨学金制度として新たに制定する予定。なお、財源はみらい募金の奨学金事業及び育英寄付金としたい。
	大学	③バリアフリー整備の推進、トイレの改修	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	<p>「建設事業委員会大学部会」を4月、8月に続き10月に開催し、埼玉キャンパスのバリアフリー化が必要な箇所やトイレの改修予定箇所の抽出、多目的トイレの整備計画について部会として決定、これに基づき工事に着手した。</p>	100	バリアフリー整備、トイレの改修については、10月の「建設事業委員会大学部会」において、計画を定めこれに基づき工事に着手した。引き続き計画に沿って工事を進捗させる。	
	中高	①日駒祭の2年生のクラス参加、イベントの運営及びパンフレットの制作を生徒が行えるようにすべく支援	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	<p>日駒祭のテーマ「創れ、青春の最高傑作」に沿ったポスターとパンフレットを教員の指導の下に生徒が主導して作成し、9月20日、21日に文化祭（日駒祭）は滞りなく開催した。</p>	100	-	
	中高	②体育祭のパンフレット制作や競技種目の決定等について生徒の参画を促すべくサポート・支援	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	<p>高校は大井ふ頭海浜公園ホッケー場で開催（5月22日）し、生徒会が主体となって決定した競技を実施、無事終了した。中学は、日本工大のグラウンドで行う予定であったが、天候不良によって実施できなかったため、後日アリーナを使って団体競技を学年毎に実施した。</p>	100	-	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
 ※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略 実施計画	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度													実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
(1)次世代に向けた持続的なガバナンス改革の推進																				
2. 社会的要請に応える 自律的ガバナンス改革	法人	①ガバナンス体制構築の一環として、理事・監事・評議員向け研修を実施	理事長 事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														令和7年4月の私立学校法の改正における理事、監事、評議員の役割・責任について、TMI総合法律事務所の大河原弁護士を講師とし、9月25日に開催。	100	来年度は、ガバナンス改革の取り組みを「攻め」のガバナンス改革へと発展させていくべく、研修機会の設定等を検討する。
	法人	②職務分掌事項の明確化と管理運営規程・職務分掌規則等への反映	理事長 事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														寄附行為等に基づく業務執行理事の承認権限の明確化、将来を見据えた組織見直しの一環で令和8年4月1日付けの法人本部の組織改編等を反映し、管理運営規程・職務分掌規則等を改正。	100	今後とも実効性の高い本法人としての組織、体制を順次検討し、具現化に向けて取り組んでいく。
	法人	③内部統制システムの整備・運用と自己点検の実施	理事長 事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														私立学校法の改正を受け、本法人の内部統制に関する基本方針を改正(4月1日)。年度を通じて内部統制システムの整備・運用に努めており、その取り組み状況について、令和7年度の自己点検を実施。	100	令和7年度の取り組み状況の自己点検結果を踏まえ、来年度の整備・運用に努めていく。
	大学	①内部質保証体制の構築	大学担当	計画 実施														本年度から大学の下に「自己点検・評価委員会」を設置する運営体制に再構築した。また教学マネジメント体制についてもスリム化かつ、より実質的な体制に再整備し、これらについて規程の改正等を行った。併せて「内部質保証に関する基本方針」を令和7年7月理事会において改正した。これらを踏まえ自己点検・評価を実施、また、ガバナンス・コードに基づく実施状況の点検を行い、理事会の承認を得て、結果を公表するとともに日本私立大学協会に報告した。	75	規程の整備を含め、より実質的、実効性の高い体制を整えた。自己点検・評価の実施にあたっては適切な運用管理が必要と認識する。また、教学を中心とした質保証や、より実効性のある自己点検・評価をどのように担保するかが課題であるが、内部評価委員会を設置し、第三者的な立場でモニタリングすることで対応する予定である。
	大学	②積極的な情報発信	大学担当	計画 実施														教学マネジメントやブランディングの観点からも本学ならではの教育研究活動をステークホルダーに訴求する情報発信を行った。本学の取り組みを埼玉新聞、日刊工業新聞等に積極的に情報提供した。学校教育法施行規則の改正に伴い、新たに規定された項目の公表を行った。また、ガバナンス・コードに基づく点検結果を10月に公表した。	100	法令等により求められる教育情報、財務情報等を分かりやすく発信する。引き続き本学の教学マネジメントの取組み状況や教職員、学生の活動状況を含め本学の学生募集等に資する情報を適時適切に発信していく。
	中高	①教育及び学校運営の機能向上と円滑化に資する「運営委員会」の運営・実施	中学・高等学校担当	計画 実施														校長が主導して円滑に機能している。	100	-
	中高	②学園事務局と連携した時宜に応じた研修の実施のほか、若手の登用促進などによる計画的な人材育成の検討	中学・高等学校担当	計画 実施														3月に警視庁目黒署から講師を招き、教職員に「防犯研修」を行い、今年度の研修は予定通り終了した。	100	-
(2)教職員のコンプライアンス意識の醸成と定着化(コンプライアンス体制の構築)																				
法人	①今年度は研修プログラムと合わせて、コンプライアンス推進等の取組み計画を策定し、取り組みを進める	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														令和7年度の研修プログラム及びコンプライアンス推進等の取組み計画を策定し、計画通り実施。	100	今年度の取り組み状況を踏まえ、令和8年度の研修プログラム及びコンプライアンス推進等の取組み計画を策定している。	
法人	②教職員の意見の吸収と反映に活かすべく、意識調査の機能を高度化すると共に、提案の仕組みを再検討する	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														経年比較及び属性を通じてコンプライアンス意識を確認し、今後の活動に活かすため、7月に第4回コンプライアンスに関するアンケートを実施。また、提案の仕組みの再検討に着手し、「学園提案箱」活用に向けた取組み方針(案)を策定した。	75	アンケートの結果は、今後の取り組みに反映していく。「学園提案箱」活用に向けた取組み方針を共有化し、活用促進につなげていく。	
法人	③公益通報窓口の継続的な周知と外部窓口の設置検討	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														令和7年度上半期に開催した内部統制システムをテーマにした教職員向け研修会において、公益通報窓口の有用性について解説、周知を図った。令和7年6月に成立した改正公益通報者保護法(令和8年12月に施行予定)に係る政省令等を見極めつつ、外部窓口の設置等対応を検討中。	100	令和8年12月の改正公益通報者保護法施行に向けて、準備を進めていく。	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略 実施計画	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度													実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
(3)リスクマネジメント推進による組織対応力の強化(リスク管理体制の構築)																				
2. 社会的要請に応える 自律的ガバナンス改革	法人	①リスクアセスメント手法の検討と実施	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														学校法人に求められることとなった内部統制システムに基づき取組むべきリスク管理手法の一環として、リスクアセスメントを実施。リスクの洗い出しにより、リスク分類13項目について、対象業務37項目毎にリスク評価し、統制状況を確認した。	100	リスクアセスメントの結果、改善の余地のある10項目について、対応方針に基づき今後取り組む。
	法人	②危機管理体制に関する実践的研修の実施と、結果を踏まえたリスク管理体制の強化に向けた対応	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														学校法人に關係する重大な事件・事故によって及ぼされる危機を想定し、これに備えるため、法人・大学・中高の幹部職員を対象とした危機管理広報 実務対応型研修を実施（4月28日）。7月には危機管理委員会を開催し、大学・中高ごとのリスク認識を踏まえたリスク管理研修を実施した。	100	リスク管理研修の実施状況等については、11月開催の危機管理委員会を確認した。
	法人	③情報セキュリティレベルの向上に向けて策定した再発防止策（研修を含む）の実施と、効果的なモニタリングの検討	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														情報セキュリティレベルの向上に向けて策定した強化策として、個人データの物理的安全管理措置に関するガイドラインの継続的な周知と運用の強化、パソコン管理体制の見直しと強化に計画的に取り組む実施中。新たな発現事象や、他社他学事案を踏まえた更なる統制強化の必要性を認識した。	75	発現した事象を踏まえ、効果的な再発防止策を検討。
	大学	①危機管理システムの再整備	大学担当	計画 実施														4月に新入生を対象とした避難訓練及び全学的な総合防災訓練を、12月には学生中心の消火訓練を実施した。事業継続計画については、他大学の整備状況を調査した。また、弁護士を講師に招き法人・中高合同で危機管理広報研修を実施した。「内部統制システム」の一貫としてリスク管理手法や体制の有効性検証・見直し」を行う仕組みを整備した。この他、ハラスメント相談員を対象とした研修を行った。	100	大学における事業継続計画の検討、法令等の改正に伴う体制（熱中症対策、カスハラ対応等）のさらなる検討を行う。
	大学	②安全管理の徹底と安全教育の充実	大学担当	計画 実施														本学の安全教育をマニュアル化した「安全の手引き」を全学に展開し、全学共通の手引きを用いて継続して安全教育を実施している。全学的に更に意識を向上させるべく、教育改革シンポジウム内の企画として「内部統制システム」をテーマとしたコンプライアンス研修を実施した。また、10月には「サイバーセキュリティの現状と最前線」をテーマとした情報セキュリティ研修を実施した。2月には「安全教育の日」の一環として大学における安全に関する講演をオンデマンド配信した。	100	-
(4)教職員のキャリア形成支援に向けた取組み推進																				
法人	①中長期的な視野に立ったキャリア支援プラン策定に向けて人事制度の仕組み検討に着手	事業企画・ リスク管理 担当	計画 実施														前中期計画期間中に実施した「キャリア形成支援」の取組みを振り返り、効果と課題を検証し、新たなキャリア形成支援プランを策定。令和8年度から具体的に取組みを開始する。	100	令和8年度から計画に基づき取り組む。	
大学	①人材育成と事務機能の効率化・高機能化	大学担当	計画 実施														学園共通の職員研修の他、各種研修等のセミナーを、希望する職員が受講できるオンライン講義を提供し、自己研鑽、個々の能力を高める施策を検討した。また、主として若手職員を対象とした研修も継続的に実施した。その他、IT、生成AI等の技術・知識の向上を目的とした研修も実施した。併せて業務DXを推進するための体制整備の緒についた。	100	業務が複雑かつ多岐にわたる状況にある。これらに対応するための一定水準以上の業務に応じた専門的な知識やIT技術等を修得できるような体系的な研修計画の立案が必要である。また、急速に浸透する生成AI技術を業務に対し、どのように活用するのが課題として上げられる。さらに、人事制度の仕組みの策定及び運用をどのようにするかは長期的な課題。	
中高	①教職員の外部研修への積極的参加の支援、外部講師を招いた講演会や学校法人共通の研修会受講等通じた教職員の自己啓発の促進	中学・高等 学校担当	計画 実施														理数系強化研究会主催「ジオパークとジオノスで学ぶ地質学」研修や、2月には東京私立中高協会主催の「防災研修会」に担当教員が参加する等、自己啓発の促進に努めた。	100	-	
中高	②運営委員会、教職員相互による授業観察、「自己評価シート」「自己宣言シート」を活用した教職員の能力開発・資質向上の促進	中学・高等 学校担当	計画 実施														令和8年度の担任や人事は、R7年度の「自己評価シート」、「自己宣言シート」の結果を踏まえた適材適所の配属等としている。なお、評価結果は、横申を入れるなど、確認手続きを経ている。	100	-	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略 実施計画	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度													実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
3. 変化に備える財務体質の改善	(1)学校経営の発展・充実に向けた安定的な学納金収入の確保																			
	法人	①グローバル教育にフォーカスしたWebページの立ち上げ、「NIT-Connect」を活かした広報素材の継続的な開拓、展開	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施														Webページの立上げについては、来年度から業務の見直しが想定されることになったため一旦棚上げ。NIT-Connectのカレッジマイスターの工房展示は継続中。	100	令和8年度も継続的に展開していく。
	大学	①より効果的な学生募集活動の推進	大学担当	計画 実施														学内ONE TEAM体制の構築。OCにつき懸案の時系列トレース表を策定、活用を開始した。OC、見学会、ガイダンス等に時間が割かれている中、本来重点を置くべき高校訪問の機会確保に向け、現状の業務を洗い出し、関係部署の担当業務を整理した上で、見直しを進めている。	100	関係部署（高大連携推進室・入試部・総合企画室）の担当業務を明確にし、必要な規程の改正を実施する。入試課においては、業務の一部を外部委託することで、高校訪問の機会の確保を進めている。
	大学	②高大連携推進による高校・生徒等ステークホルダーとの信頼関係の構築・拡大	大学担当	計画 実施														個別校訪問、ガイダンス参加等により接触の機会拡大を図っている。また、出前授業、研究室インターンシップ、DXハイスクール事業、総合的な探究の時間の支援等を推進している。さらに連携協定校の拡充・連携強化も進めている。学生募集連携会議（高大連携推進室・入試部・総合企画室）による情報連絡・交換をするとともに、連携体制の強化を進めている。	100	普通科高校、特に重点校との関係構築に重点を置いた高校訪問の実施により一層注力する必要がある。そのために、普通科高校・工業科高校のこれまでの実績をまとめたマスターデータを作成し、重点校の再選定を進める。
	中高	①中高一貫教育による目指すべき教育の実現、延いては学納金収入の安定化に資する募集定員の見直しによる学則変更の検討	中学・高等学校担当	計画 実施														中高一貫教育による募集の安定化を目指した学則定員の変更（中学校21学級810名、高校30学級1200名）が東京都から7月29日に認可された。12月に中期財務計画を策定し、学納金等の値上を含め収入の安定化に努め、令和8年度の予算計画に反映した。	100	-
	中高	②積極的な生徒募集活動の展開による入学人数の確保、教職員数の適切な管理の徹底	中学・高等学校担当	計画 実施														中学新入生257名、高校生外部新入生233名、併中生200名、休学1名の434名となり予定を上回る生徒となった。	100	-
	(2)組織・業務の効率化、設備の効率化等によるコスト構造の見直し																			
	法人	①人件費の中期的な推移を見据え、学納金収入の計画と整合する適正な人員計画検討を開始する	事業企画・リスク管理 財務担当	計画 実施														決定した中期財務計画の中で、同計画上の学生・生徒募集計画をベースとし、計画期間中に経常収支が黒字化する要員計画を策定することができた。	100	-
	法人	②今後の中長期修繕計画策定のための基礎資料として、建物毎に必要なと推定される修繕・保守及びそのコスト推移を一覧化	事業企画・リスク管理 財務担当	計画 実施														建物のライフサイクルの中で、保守・管理に必要な経費についての可能な調査は終了した。	100	今後の施設整備計画や建物の統廃合計画に活かしていく。
	大学	①資産管理の適正化及び効率化	財務担当	計画 実施														終了した棚卸のデータの集計作業と立ち合い時確認できなかったPCの調査を継続中。終了次第、報告予定。	100	令和7(2025)年度開始のPC全件棚卸しは12月に終了済。翌年度からはipadを用いた棚卸を実施する。
中高	①学園創立120周年記念事業の一環として、事務棟の跡地を利用した通用門の設置と、その上階に入試広報施設を置く建築計画の取組み	中学・高等学校担当	計画 実施														令和9年3月末竣工に向け工事が進んでいる。	100	-	
(3)教育・研究を起点にした産官学連携等による外部資金獲得増強																				
法人	①宮代町ふるさと納税タイアップ事業者としての取組みを起点としたふるさと納税活用スキームへの展開等、寄附募集活動の促進	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施														宮代町ふるさと納税活用による取組みの再交渉を5月に開始し、今年度のふるさと納税タイアップ事業として具現化。その他、引き続き、ステークホルダーとのコンタクトチャネル拡大支援、同窓会との連携などに努めている。	100	今年度ふるさと納税タイアップ事業の申し込みあり、引き続き、ふるさと納税を活用した教育活動支援と地域活性化に寄与すべく、取組みを推進する。	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度												実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
		実施計画			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
3. 変化に備える財務体質の 改善	法人	②学園創立120周年募集事業の実施に向けて「記念事業推進本部」のもとに「募集事業委員会」を設置し、準備に着手	事業企画・ リスク管理 担当	計画													7月24日開催の理事会において「学園創立120周年(大学設立60周年)記念事業の推進体制」を決定した。これに則り、記念建設事業を計画し、募金趣意書を学校法人のホームページに掲載、募金事業を進めている。	100	記念事業について、スケジュールに則り進めていく。
				実施															
	大学	①研究活動の活性化	大学担当	計画													研究活動を円滑に進められるよう、「教育研究推進のための説明会」を開催し、研究者が守るべきルール・規範について説明した。また、外部資金獲得が困難な研究者からの応募を促進すべく、採択額は少額であるが応募しやすい公募枠を設ける等、学内の競争的研究費に関する公募要領の見直しを行い、研究者が研究に取り組むモチベーションを高めやすい仕組みの構築を進めた。上述の検討を踏まえ、令和8年度学内の競争的資金に関する公募を行い、採択者を決定した。	100	-
				実施															

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
 ※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略		担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度												実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)
		実施計画				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
(1)本学が有する教育研究資源を活かした社会貢献、社会実装																				
4. 発展と調和に貢献する社会的価値の持続的創出	法人	①大学、中高における教育・研究の取組み、成果を内外に効果的に情報発信していくため企業・自治体との連携を強化	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													宮代町とのふるさと納税を起点とした連携を再交渉し、タイアップ事業の取り組みを内外に情報発信。サステナブルボード外部監査を起点とした日本電鍮工業㈱との連携、令和7年度彩の国ビジネスアリーナに大学・研究機関として出展するなどした。	100	今後とも、他業態との連携に工夫し努めていきたい。	
	大学	①学外に向けた社会連携成果のブランディング化と知の好循環	大学担当	計画 実施													宮代町や杉戸町等、地元自治体等との関係を維持・強化すべく、現在教育研究推進室で担う社会連携系センターおよび生涯学習系の窓口・受け皿体制に関する情報共有と運営の統一化を図り、運用を開始した。	100	次年度は、執行会議で承認された「社会連携系センターの運営等の見直し」の方向性に則り、社会連携系の各センターの協力のもと、運用を軌道に乗せていく。	
	大学	②農業分野への実工学的アプローチ	大学担当	計画 実施													外部資金の獲得に継続してチャレンジし、学内資金と併せて獲得した外部資金を元手として、工学を用いた農作業の省力化を目指すスマート農業の取り組みを継続して推進している。また該当研究機関間での調整をサポートしている。	100	S1棟を再整備し、次年度よりスマート農業センターの一部として活用していく。	
	大学	③社会人向けリカレント教育プログラムの具体化	大学担当	計画 実施													社会人向けリカレント教育プログラムとして、主に中小企業を対象の「DXとAIデータサイエンス」を検討している。	100	教学調整会議で検討を進めている。実施に向けての草案を作成して、実施のフレームワークを検討している。需要を調査し、実施の費用対効果を検討する必要がある。	
	(2)DXによる組織風土の変革への取り組み推進																			
	法人	①私学法改正の趣旨、及び本法人のより実効性の高い組織運営を目的とした体制の見直し検討に着手	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													業務執行理事の選定及び担当委嘱、並びに職務権限表の改正にあたり、今後の本法人共通のプラットフォームを構成する横断的な業務、体制の見直しを見据えて協議。より実効性の高い組織運営を目指し、第一段階として、令和8年4月1日付けで法人本部の組織改編を行う。	100	今後、本法人に合う、より実効性の高い組織のあり方を検討し、順次取り組んでいく。	
	法人	②育児介護休業法、そのほか働き方改革関連法の改正動向を見極めつつ順次対応	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													4月及び10月に段階的に施行された改正育児・介護休業法への対応について、4月に所要の対応を実施し、10月より柔軟な働き方を実現するための措置の運用を開始した。今後想定される、労働基準法等の改正動向を踏まえ、現在準備中。	100	労働基準法等働き方関連法の改正が見込まれており、改正内容を見極め対応を検討していく。	
	法人	③学内ネットワーク基盤を更改し、システムサービスを安定的に供給する体制を確保するとともに、ガバナンス基盤を拡充し、高い付加価値提供できる体制を構築	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施													情報システム基盤について、導入8年以上が経過している無線LAN装置・ネットワーク機器更改に計画通り着手、学内ネットワークの安定稼働と性能向上を図っている。また、ログ管理の強化(Logstorage)、システム復旧計画(DRP)の策定を実施し、ガバナンス基盤の拡充にも取り組み、より強度が高いシステム基盤の上に、より付加価値が提供できるICT基盤と運用体制の構築を進めている。	75	無線LAN装置・ネットワーク機器の更改、ログ管理強化(Logstorage)、システム復旧計画(DRP)策定はいずれも計画通り推進できており、現時点で特段の課題は生じていない。今後は2026年度以降に想定されている学内のカリキュラム変更に合わせて、引き続きシステム要件の収集や推進中の案件を調整しながらプロジェクトを進める。	
	大学	①組織体制の整備充実	大学担当	計画 実施													4月に、学生募集に関わる組織の情報共有等を図るものとして、「学生募集連携会議」を組織した。また、奨学金業務の多様化・複雑化に対応するため当該業務を外部委託した。より効果的効率的な組織となるよう継続的に検討を進めた。令和8年度に向けて学長室の設置、学生募集体制の強化など組織等の変更を決定した。	100	継続的に人員配置等の見直しや組織の改編等を検討する。特に学生募集を中心として、より効果的な組織となるよう検討を行い、今後も必要に応じ組織の見直しを行う。	
	大学	②新たな「働き方」の検討	大学担当	計画 実施													規程の改正等により育児・介護等の充実を図った。また、週休2日制を試行的に実施しているが、令和8年度からの本格導入に向けて就業規則等の改正手続きを行った。その他引き続き残業の削減、有給休暇取得率の向上のための施策を衛生委員会等を通じて検討した。	100	育児・介護等に関する制度の情報提供を積極的に行う。また、労働関係法令の改正等への対応や、「働き方改革」として取り組むべき項目の整理を行う。	

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
※「達成度」は25%単位で評価するものとする

令和7年度事業計画の進捗状況報告兼理事長及び業務執行理事の職務執行報告

中計行動目標	部門	基本戦略	担当業務 執行理事	計画 実績	令和7年度													実行状況〔3月〕 (Do)	達成 度	課題と対応 (Check・Action)	
		実施計画			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
4. 発展と調和に貢献する社会的価値の持続的創出	法人	(3)持続可能な社会実現のための持続的・多面的な取組み推進																			
		①教育・研究活動を起点とし、産官学連携した持続可能な取組みに発展させ見える化していくことを目的の1つとして、サステイナブルボード監査を実施	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	令和6年度環境マネジメントシステム活動の適切性について、サステイナブルボード監査を9月11・12日に実施。持続可能な社会実現の視点に立ち、監査結果をまとめ、大学環境推進委員会（11月4日）に報告。	100	来年度実施予定のサステイナブルボード監査を通じ、対応状況を確認する。
		②大学・中高における持続可能な取組みを共有化し、横展開を図るなどを目的とした、学校法人として枠組を検討	事業企画・リスク管理 担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	大学から定期的に発信しているSDGs/EMSメールマガジン、中高による日駒エコキャンパスプロジェクトについて、教職員限定学園サイトに掲示、共有化し、横展開を開始した。	100	今後とも、本法人内の共有化、見える化に努めていく。
		①持続可能な社会実現のための持続的・多面的な取組み推進	大学担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	4月から12月までは、カーボンニュートラルロードマップの見直し（4月）、EMS全員大会の開催（5月）、宮代町カーボンニュートラル推進協議会にて本学の創エネ事例を紹介（6月）、女子栄養大学とコラボ企画実施（10月）、福島県只見町集落復興支援事業実態調査実施（11月）等を行った。1月に埼玉県環境科学国際センターから講師を招き、「地球温暖化の影響と対策」をテーマに環境特別講演会を開催。2月に只見町集落復興支援事業発表会にて学生が実績を報告。3月にキャンパス内ゴミの資源化率の向上に向け、ゴミ箱の減量化と分別用ピクトサインを見直し更新。また、私立大学環境保全協議会の研修研究会を本学会場にて開催、本学教授による環境講演の他、学生環境推進委員会メンバーによる活動事例を紹介し、高評価を受けた。	100	カーボンニュートラルにおいて、埼玉地球温暖化対策推進条例に基づく、本学の目標達成に向けた施策の取り組みを確実に行うと共に、実施後の実績管理を行い、設備運用の最適化を目指す。学生への環境教育を兼ねた、ゴミの分別を促進し、ゴミの減量化と資源化率の向上に努める。
	中高	①エコキャンパス活動を通じて、周辺環境や地域コミュニティとの繋がりを大切にしながら、自然共生、カーボンニュートラル、資源循環など、SDGsの理念に基づく取組みを継続・推進	中学・高等学校担当	計画 実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11月22日～24日のJapan BEE サミット（ミツバチと送粉者を中心に環境・農業・食・文化・教育・医療などをテーマにした日本最大の総合イベント）に園芸養蜂部が参加（展示部門で優秀賞）するなど、SDGsの理念に基づく取組みを行った。	75	令和8年度に向け、エコキャンパス活動を継続する。		

※「達成度」「課題と対応」は9月末・3月末報告とする
 ※「達成度」は25%単位で評価するものとする